

保護者各位

学校感染症の対応についてのご協力願い (インフルエンザ・感染性結膜炎を含む)

医療機関で、インフルエンザ等の感染症と診断を受けた場合は、学校へ連絡し、医師の指示に従ってください。(おもな学校感染症と出席停止期間につきましては、資料をご覧ください。)

また、登校前に発熱している場合や、インフルエンザや結膜炎等の感染症が疑われる場合には、感染症の蔓延を回避するためにも学校に連絡後、速やかに医療機関を受診して下さい。

登校後、インフルエンザや流行性結膜炎等の感染症が疑われる場合には、保健室で症状を確認し、状況によっては早退等の措置をとりますのでご理解をお願いします。(早退の場合は、感染症疑いとなり出席停止扱いになります。) ご理解、ご協力いただけますようよろしくお願い致します。

学校感染症に対する対応

1. 学校感染症の疑いがあり欠席する場合、または医療機関を受診し学校感染症の診断を受けた場合は速やかに学校へ連絡してください。
2. 治癒して登校する際は、原則として医師による「治癒証明書 (診断書)」が必要です。
学校の様式は、学校ホームページよりダウンロードできます。必要に応じてご活用ください。

※インフルエンザの場合

治癒証明書ではなく「インフルエンザ快復届」に必要事項を記入し、医療機関を受診時の領収書等のコピーを添付し提出して下さい。(受診日が分かる書類)

インフルエンザの出停期間については、インフルエンザ出停期間早見表をご確認ください。

なお、インフルエンザ症状があり医療機関を受診した結果、インフルエンザ陰性でも受診日は「出席停止」となります。

・インフルエンザの症状が疑われる場合

普通の風邪は、喉の痛み・くしゃみや咳といった症状が多く、全身症状はあまり見られません。インフルエンザは、39℃以上の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛などの全身症状が強く、これと一緒に喉の痛みや鼻水などの症状が見られます。さらに、気管支炎や肺炎などを併発して重症化することが多いこと、流行が爆発的に始まって短期間でたくさんの人に感染するというこ ともインフルエンザの特徴です。流行期に発熱が継続する場合は、一度医療 機関の受診をお願い致します。

・感染性の結膜炎が疑われる場合

おもな症状は、結膜の充血、目ヤニがたくさん出る、まぶたが腫れる、まぶたの裏側にブツブツができる、目がゴロゴロする、まぶしいなどです。感染力が強いので、症状がある場合は眼科を受診しましょう。

かぜのときによくみられる症状

- 頭が痛い
- 鼻水が出る
- せきやくしゃみが出る
- 体がだるい
- のどが痛い
- おなかが痛い



こんな症状が出たらインフルエンザかもしれません

- 筋肉や関節が痛い
- 38℃以上の高熱が出た
- 急に寒気がしてきた



資料 おもな学校感染症

学校保健安全法施行規則より、下記の感染症に罹った場合は、「出席停止」となります。(欠席ではありません。) 医療機関を受診し、医師の指示に従って下さい。

分類	病名	出席停止の基準
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、ラッサ熱、マールブルグ熱、重症急性呼吸器症候群(SARS)、ジフテリア、急性灰白髄炎(ポリオ)、鳥インフルエンザ(H5N1)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症後5日、かつ、解熱後2日が経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消失した後2日を経過するまで
	結核	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
第三種	コレラ	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	その他の感染症(注1)	

平成24年4月1日一部改訂

※(注1) その他の感染症とは

学校で流行が起こった場合にその流行を防ぐため、必要があれば学院長が学校医の意見を聞き、第三種の感染症として措置をとることができる疾患です。出席停止の指示をするかどうかは、感染症の種類や各地域、学校における感染症の発生・流行の態様などを考慮の上、学校医が判断します。以下、条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例を挙げます。

- 溶連菌感染症
- ウイルス性肝炎
- 手足口病
- 伝染性紅斑
- ヘルパンギーナ
- マイコプラズマ感染症
- 流行性嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)